大正噴火で起こったこと

大正3年（1914年）1月12日（月）午前10時すぎに噴火が始まりました。

山の途中にいくつもの火口を作って噴火し、はるか高くまで噴煙が上がりました。

問題1 噴煙の高さはどれくらいまであがった？

① 180m
② 1800m
③ 18000m

その日の夕方、桜島南西沖を震源とする大地震が発生しました。

鹿児島市内で大きな被害が出たんだね。知らなかった。

下伊敷あたりの甲突川の土手にひびが入ってたそうよ。

桜島島内では、大量の軽石や火山灰が降り積もりました。

今でも大正噴火の面影が見られます。

問題2 黒神埋没鳥居は、軽石や火山灰でどれくらい埋もれたでしょうか？

① 10cm
② 70cm
③ 2m

噴火から約二週間後、桜島は大隅半島と陸続きになりました。

噴火前

噴火後

問題3

なぜ、陸続きになったのだろう？

① 地面が隆起した(盛り上がった)
② 溶岩が流れ出た
③ がけ崩れがおきた

大量の軽石と火山灰が降り積もった風下側の大隅半島では、たびたび土石流や洪水がおき、周囲の家屋や田畑に大きな被害を及ぼしました。

★土石流が起きた場所
洪水が起きた場所

(土石流)山の斜面に火山灰が厚く積もり、大雨が降ると周りの土砂や岩石を巻き込んで流れ出します。

なぜ、大正噴火では桜島の東側にたくさんの軽石や火山灰が積もったんだろう？

一月の鹿児島は西側から風が吹くから、風下の東側に軽石や火山灰が積もりやすいんですよ。

問題4

なぜ、軽石や火山灰は風の影響を受けるのだろう？
まちがっているのはどれでしょう？

① 噴煙が高く上がるから
② 溶岩が流れ出るから
③ 軽いから

ほかの季節に桜島が大噴火したらどうなるのか考えてみましょう。